2026年11月12日

2027年6月期 第1四半期 決算説明資料

MWCC Inc.

Make Wave,
Make World.

世界が知らない世界をつくれ

アジェンダ

1. エグゼクティブ・サマリー
2. 第1四半期業績・経営指標ハイライト
3. 成長戦略及び第1四半期公表案件ハイライト
4. （参考）決算発表日までの公表案件ハイライト

エグゼクティブ・サマリー

2027年6月期 第1四半期決算	• 売上高105百万円 • MWS事業の契約済ベース（284百万円）での進捗率は22.5%
KPI	• 新規契約獲得数：今期計画25件に対して6件の契約を獲得（進捗率24.0%） • 契約総数：今期計画63件に対して、25件が契約済（進捗率39.7%）、うち14件が納品済
成長戦略及び 案件ハイライト	マイクロ波ソリューション事業（MWS事業）を基盤に、DualPoreソリューション事業（DPS事業）の成長と新たなソリューションの創出を推進。領域・技術・市場の3軸で事業を拡大する成長戦略を展開。中期ビジョン実現に向けた9つの打ち手を策定。（詳細はP.16を参照） **MWS事業／全般** 打ち手❶ 新規案件の獲得と継続 – 独自のマイクロ波を制御するノウハウを応用し、これまで活用が困難とされていた開放空間で利用できるマイクロ波技術、および本技術を用いた装置を開発し、特許を出願（7/28発表） 打ち手❷ 小型装置の標準化・事業モデルの確定 – コーベックス株式会社が、当社と共同開発したマイクロ波溶剤蒸留回収装置「CA-800M-01シリーズ」の販売を開始（10/19発表） 打ち手❸ 発振器の内製化と大型化 – 日清紡マイクロデバイス株式会社と、マイクロ波発振器の中核部品であるマグネトロンの大出力化に向けて、その設計及び製造に関する戦略的提携を締結（9/24発表） **MWS事業／鉱山・資源** 打ち手❻ 提携先・販売先の確保 – Rio Tinto Aluminiumと、ボーキサイト処理パイロット装置の設計・製作・試験に関する契約を締結（11/12発表） **DPS事業** 打ち手❽ 新排液・元素・地域への展開 – 「燃料電池・水電解の普及を支える白金族貴金属国内循環システム構築に向けたDPS回収技術の実用化研究開発」について、NEDOより補助金の交付決定（10/1発表）

アジェンダ

1. エグゼクティブ・サマリー
2. 第1四半期業績・経営指標ハイライト
3. 成長戦略及び第1四半期公表案件ハイライト
4. （参考）決算発表日までの公表案件ハイライト

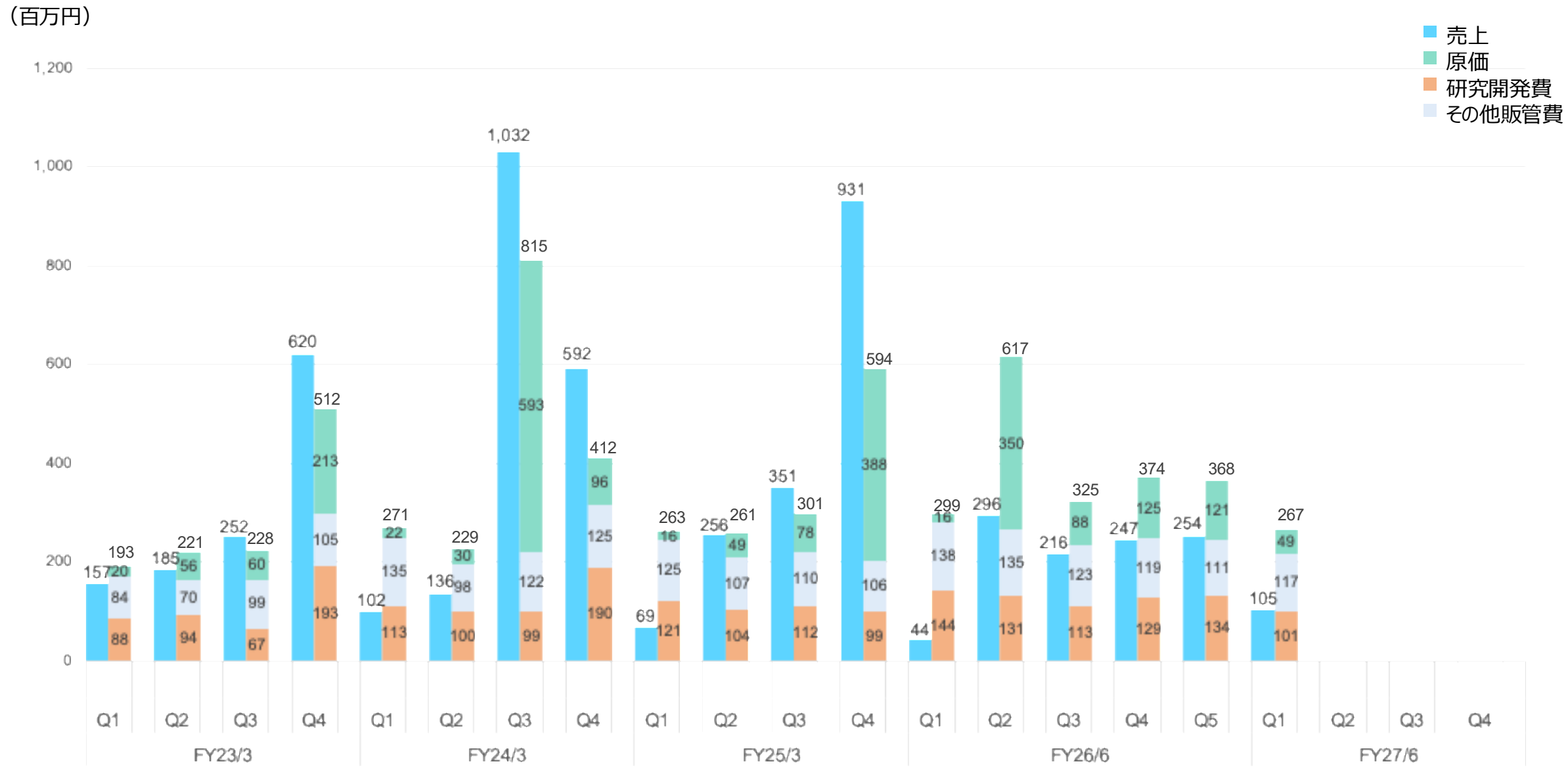
経営成績　2027年6月期第1四半期　損益サマリー

- 27/6期は、MWS事業の案件進捗とDPS事業の売上寄与による増収に加え、粗利率の回復と販管費の削減により、通期での営業黒字化を計画
- MWS事業のQ1売上高97百万円は通期計画対比7.7%であるが、契約済ベースでの進捗率は22.5%（後述）

（百万円）	FY26/6 Q1	FY27/6 Q1	前年同期比 差額	前年同期比 %	FY27/6 通期計画(2)	計画対比 %	FY26/6 7-9月	前年同期間比(3) %
売上高(1)	**44**	**105**	**61**	**140.1%**	**1,512**	**7.0%**	**296**	**(64.2)%**
MWS事業	44	97	53	121.0%	1,262	7.7%	296	(67.1)%
Phase 1	1	2	1	122.6%	245	1.0%	13	(81.2)%
Phase 2	32	81	48	147.6%	847	9.6%	283	(71.1)%
Phase 3	10	-	(10)	(100.0)%	120	0.0%	-	-
Phase 4	-	13	13	-	50	26.6%	-	-
その他	-	-	-	-	-	-	-	-
DPS事業	-	8	8	-	250	3.4%	-	-
売上総利益	27	56	29	106.9%	906	6.3%	(54)	-
対売上高比	*62.3%*	*53.6%*	*(8.6)pt*	-	*59.9%*	-	-	-
営業損益	(255)	(161)	93	-	50	-	(321)	-
対売上高比	-	-	-	-	*3.4%*	-	-	-
経常損益	(259)	(174)	85	-	23	-	(324)	-
税引前純損益	(259)	(176)	82	-	7	-	(323)	-
税引後純損益	(260)	(177)	82	-	4	-	(324)	-

(1) Phase 1は研究開発フェーズ、Phase 2は実証開発フェーズ、Phase 3は実機導入（装置販売）フェーズ、Phase 4は製造支援フェーズ
(2) 2026年8月12日発表の2027年6月期業績予想に基づく
(3) FY27/6 Q1（2026年7～9月）とFY26/6 7-9月（2025年7～9月）の比較

四半期経営成績推移（23/3期Q1-27/6期Q1）

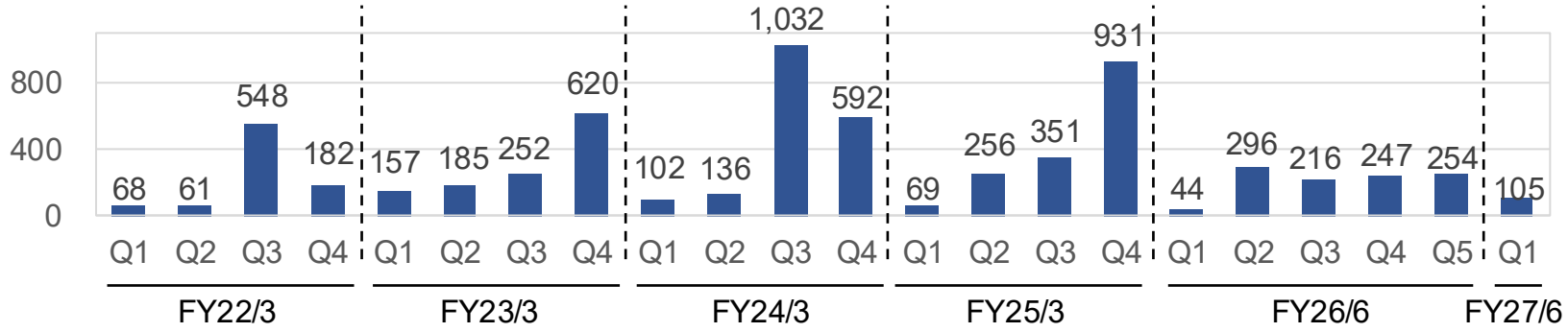


業績の季節的変動・収益認識について

＜業績の季節的変動について＞

MWS事業に関して、当社の主要顧客である日系企業は3月決算が多く、研究開発予算の執行や検収が下半期（10月～3月）に集中する傾向があります。当社の共同開発に係る収益は顧客の検収完了時点で認識されるため、当社の売上高は10月～3月（第2四半期及び第3四半期）に偏重する傾向にあります。また、大型案件の完了時期による影響があります。これに対して販売費及び一般管理費は、その大部分が固定費であることから、利益についても同様に偏重する傾向にあり、投資家の判断に影響を及ぼす可能性があります。

各四半期会計期間の売上高（百万円）



＜収益の計上基準＞

当社の顧客との契約から生じる収益に関する主要な事業における主な履行義務の内容及び当該履行義務を充足する通常の時点（収益を認識する通常の時点）は以下のとおりであります。なお、約束された対価は履行義務の充足時点から概ね1ヶ月以内で支払いを受けており、対価の金額に重要な金融要素は含まれておりません。

① 共同開発契約

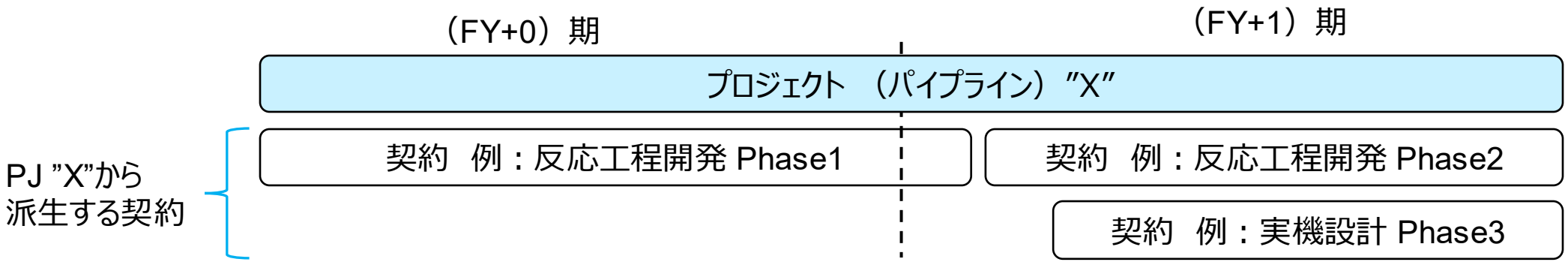
共同開発契約においては、開発テーマに関する報告書・サンプル等を提出し対価を得ております。このような契約においては、顧客による報告書・サンプル等の検収が完了した時点で収益を認識しております。

② ライセンス契約

ライセンス契約においては、顧客に対して当社の知的財産の実施許諾を行い、その対価として契約一時金、ランニングロイヤリティを得ております。契約一時金は、知的財産の実施を許諾する時点で収益を認識しております。ランニングロイヤリティは、実施許諾先の企業の売上高に基づいて生じるものであり、実施許諾先の企業において製品が販売された時点で収益を認識しております。

マイクロ波ソリューション事業（MWS事業）経営指標について

1. 当社のMWS事業を捉えるための重要な経営指標は、**①新規契約獲得数、②契約総数、③Phase別売上高**である。
2. ①新規契約獲得数と②契約総数における「契約」はプロジェクトを遂行するため顧客と個別に締結し、ソリューション提供のフェーズや形態に応じて、一つのプロジェクトより複数締結することもある（以下参照）。
3. ③Phase別売上高は、契約のフェーズ進捗について、全体的な分布とステージアップの進捗を把握するための情報であり、当社の成長を捉えるための指標となる。
4. 契約は当社収益を主に構成するものであり、当期中に検収を完了し収益が計上される「契約」を経営情報として開示している。



MWS事業｜2027年6月期第1四半期 経営指標ハイライト

1 新規契約獲得数

- 6件の契約を獲得
- 今期計画25件に対して進捗率は24.0%

2 契約総数

- 25件が契約済、うち14件が納品済
- 今期計画63件に対して進捗率は39.7%

3 Phase別売上高

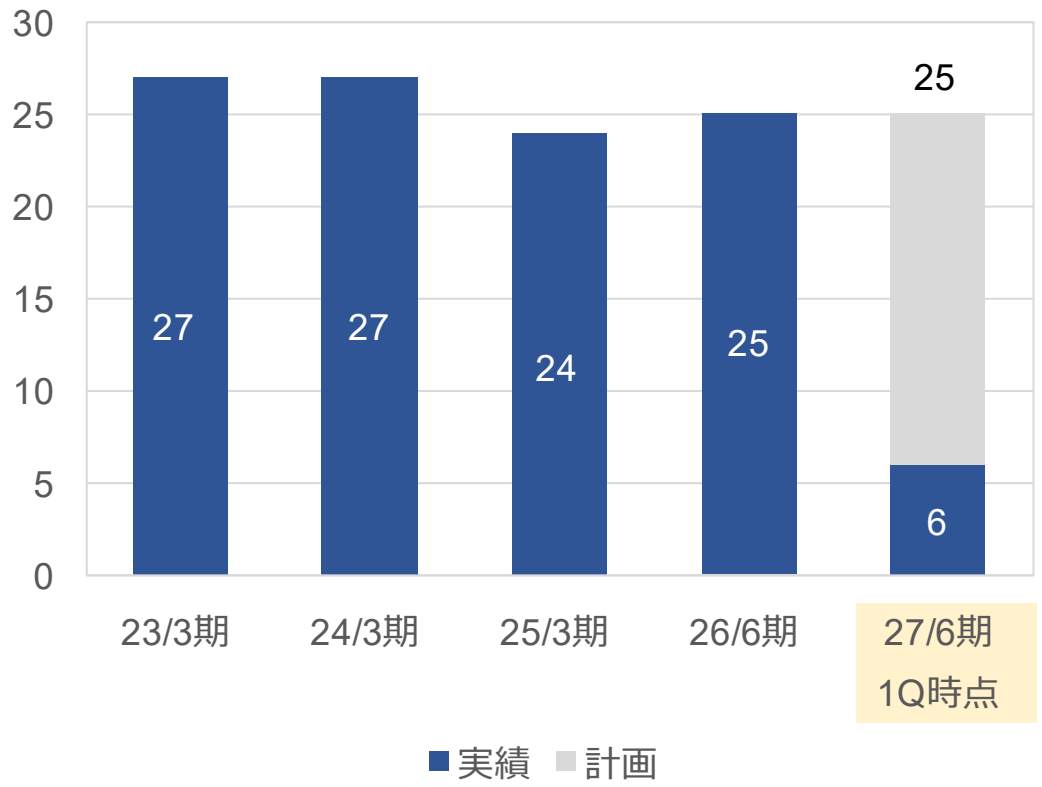
- 契約済ベースでは284百万円
- 今期計画1,262百万円に対する進捗率は22.5%

MWS事業｜経営指標①　新規契約獲得数

- 今期計画25件に対する進捗率は24.0%

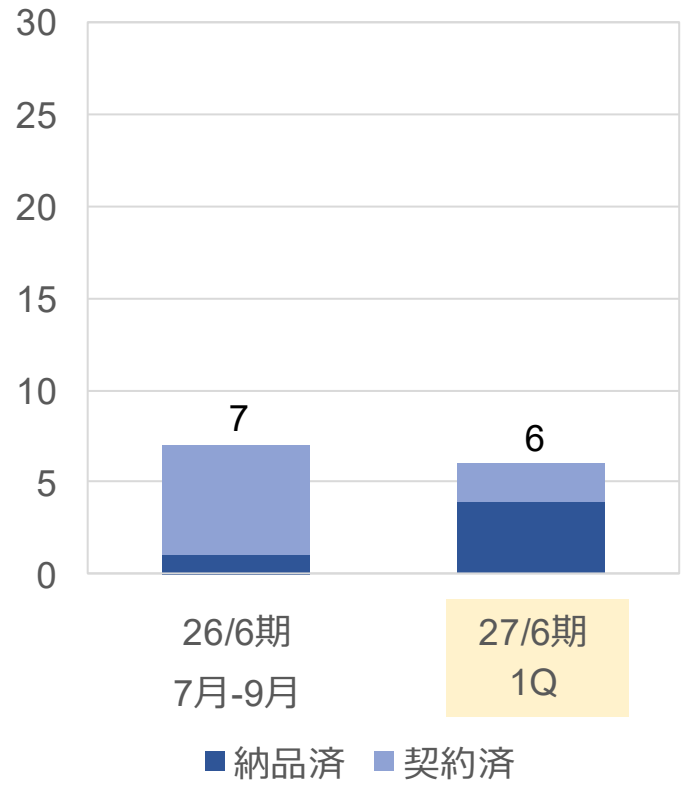
新規契約獲得数：推移

（単位：件）



前年同期間比※

（単位：件）



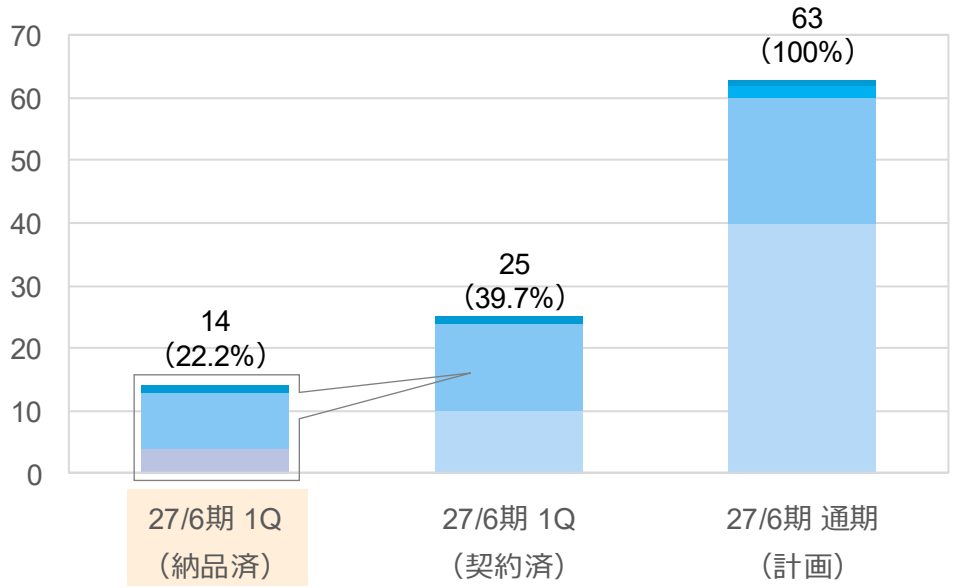
※FY27/6 Q1（2026年7～9月）とFY26/6 7-9月（2025年7～9月）の比較

MWS事業｜経営指標②　契約総数

- 契約済ベースの今期計画に対する進捗率は39.7%

通期計画に対する進捗

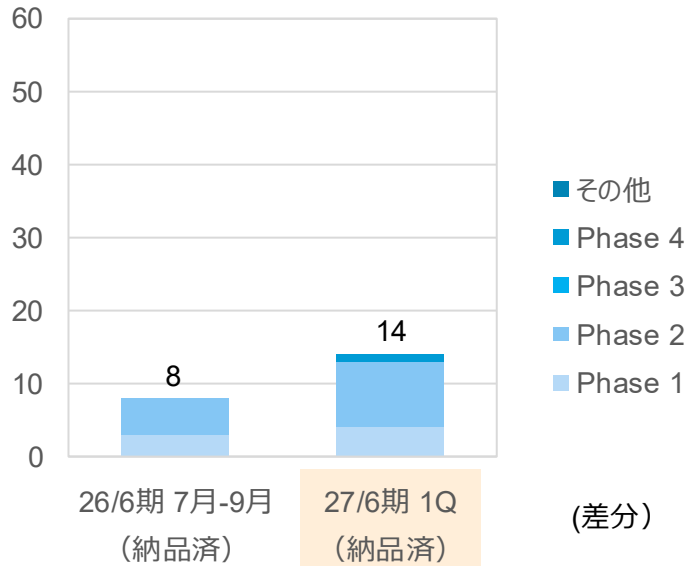
（累計、単位：件）



Phase 1	4	10	40
Phase 2	9	14	20
Phase 3	0	0	2
Phase 4	1	1	1
その他	0	0	0
合計	**14**	**25**	**63**

前年同期間比※

（累計、単位：件）



3	4	1
5	9	4
0	0	0
0	1	1
0	0	0
8	**14**	**6**

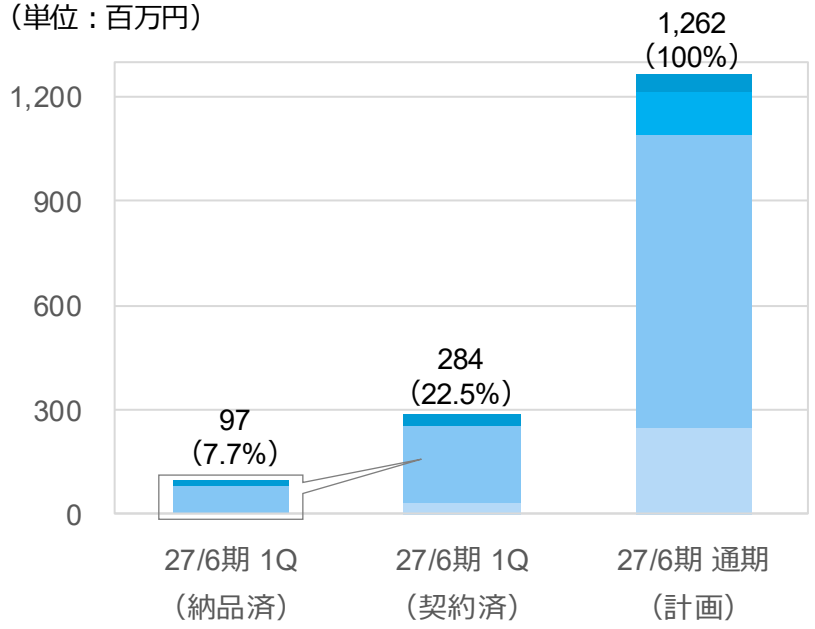
※FY27/6 Q1（2026年7～9月）とFY26/6 7-9月（2025年7～9月）の比較

MWS事業｜経営指標③　Phase別売上高

- 契約済ベースの今期売上高計画値に対する進捗は22.5%

27/6期　1Q

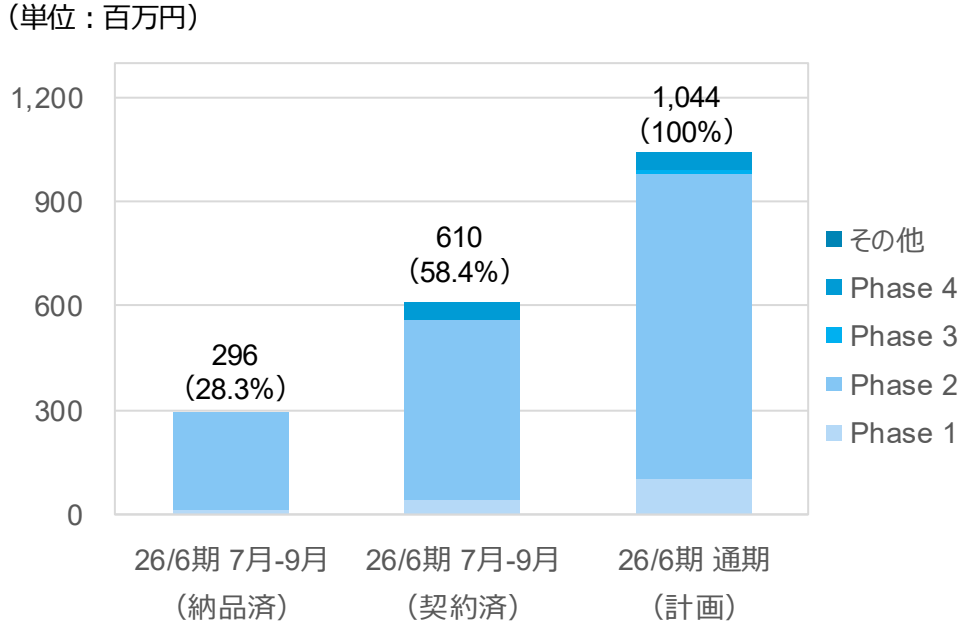
（単位：百万円）



Phase 1	2	31	245
Phase 2	81	220	847
Phase 3	–	–	120
Phase 4	13	32	50
その他	–	–	–
合計	**97**	**284**	**1,262**

（参考）26/6期　7月-9月

（単位：百万円）



13	41	100
283	518	881
–	–	10
–	49	52
–	0	0
296	**610**	**1,044**

第8回新株予約権（MSワラント）の行使状況

- 9月16日発行の第8回新株予約権は、10月末までに累計97,500株（発行総数の5.9%）が行使、約68百万円を調達
- このうち、27/6期第1四半期（9月末まで）の行使は54,500株

発行概要

割当日	2026年9月16日
新株予約権数（潜在株式数）	16,420個（1,642,000株）
資金調達額	1,603,509,680円（差引手取概算額）
行使期間	2026年9月17日～2029年9月28日
割当先及び割当方法	SMBC日興証券株式会社に第三者割当
行使価額	当初979円／下限588円
資金使途	DPS事業の設備投資、新規事業創出、事業運営

行使の進捗（2026年10月末時点）

行使率
5.9%
975個／16,420個

行使株数
97,500株
未行使 1,544,500株

調達額（行使分）
68.3百万円
9月 40.6＋10月 27.7

発行総数に対する行使済みの割合（個数ベース）



行使済み 975個（5.9%）　　未行使 15,445個（94.1%）

月別の調達額



注：調達額は行使価額×交付株数（新株予約権の払込金額は含まない）

アジェンダ

1. エグゼクティブ・サマリー
2. 第1四半期業績・経営指標ハイライト
3. 成長戦略及び第1四半期公表案件ハイライト
4. （参考）決算発表日までの公表案件ハイライト

ソリューションを広げる｜3つの軸

2026年9月17日発表 成長可能性資料 P.12

領域・技術・市場の3軸でソリューションを広げ、課題解決力を高める

① 領域を広げる		② 技術／提供するソリューションを広げる		
適用領域		マイクロ波ソリューション 中核技術	DualPoreソリューション M&Aで獲得した2つめの独自技術	第3の独自技術 （探索中）
化学・材料	製造プロセス（効率化・脱炭素）	事業化	—	獲得前のため適用領域は未定 方向性と手段は次頁
	新素材	事業化	—	
	リサイクル	事業化	探索・検証	
資源・金属	製造プロセス（効率化・脱炭素）	事業化	—	
	リサイクル	探索・検証	事業化	
半導体	製造プロセス（効率化）	探索・検証	—	
	リサイクル	—	探索・検証	

事業化 収益化済み　**探索・検証** 事業仮説を検証中　— 現時点で対象外

③ 市場を広げる ｜ 国内 → 海外（①②いずれの領域にも掛かる軸）

中期ビジョン｜打ち手、効果と結果指標

2026年9月17日発表 成長可能性資料 P.14
「FY2030までの主な打ち手」の番号を1～9の通し番号に変更して再掲

売上や案件化の時期は顧客の投資判断に左右される。当社が自ら決め、実行できる打ち手を事業ごとに明示し、年度単位のマイルストーンとして開示する。

FY2030

ソリューション	FY2030までの主な打ち手	効果	結果指標
基盤 Base **MWS ／ 全般**	1 新規案件の獲得と継続 2 小型装置の標準化・事業モデルの確定 3 発振器の内製化と大型化	▸ 会社を支える基礎的な収益と技術プラットフォームの確保 ▸ 継続収益化：大型標準機の販売でスケール（2031年～）、小型装置事業の立ち上げ、発振器内製化による収益改善	**5機の社会実装** □ □ □ □ □ ケミカルリサイクル・グリーン関連／鉱山関連（回転炉床炉）／小型装置
基盤 Base **MWS ／ 鉱山・資源**	4 マイクロ波回転炉床炉（MWRHF）の標準化 5 経済性試算 6 提携先・販売先の確保		26/6期～30/6期 の5期累計 **130～140億円** MWS **60～70%** DPS **20～25%** 新規 **10～15%**
成長 Growth **DPS**	7 供給力強化（設備投資） 8 新排液・元素・地域への展開	▸ 稼働ラインの積み上げにより、資本負担を抑えたまま継続収益が拡大	
探索 Frontier **新規：既存事業の拡張、第3のソリューション**	9 案件を仕入れる体制の確立	▸ マイクロ波・DPSに次ぐ3つめの収益の柱となり、全社の継続収益比率が高まる	50% **30/6期 継続収益比率 50%** 小型装置販売事業／DPS／新規事業

※ 四半期・通期の決算開示においては、従来の経営指標（新規契約獲得数・契約総数・Phase別売上高）を継続して開示します。各マイルストンの到達時期は順次開示していきます。本資料中の中長期の数値は参考値であり、目標値ではありません。

第1四半期及び決算発表日までの公表案件一覧

	該当するFY2030までの主な打ち手（中期ビジョン）	テーマ	パートナー	発表日	発表四半期
MWS事業全般	❶ 新規案件の獲得と継続	• 独自のマイクロ波を制御するノウハウを応用し、これまで活用が困難とされていた開放空間で利用できるマイクロ波技術、および本技術を用いた装置を開発し、特許を出願	• ー	• 2026年7月28日	• 1Q
	❸ 発振器の内製化と大型化	• マイクロ波発振器の中核部品であるマグネトロンの大出力化に向けて、その設計及び製造に関する戦略的提携を締結	• 日清紡マイクロデバイス株式会社	• 2026年9月24日	• 1Q
	❷ 小型装置の標準化・事業モデルの確定	• マイクロ波溶剤蒸留回収装置「CA-800M-01シリーズ」の販売を開始	• コーベックス株式会社	• 2026年10月19日	• 2Q
MWS事業鉱山・資源	❻ 提携先・販売先の確保	• ボーキサイト処理パイロット装置の設計・製作・試験に関する契約を締結	• Rio Tinto Aluminium Limited	• 2026年11月12日	• 2Q
DPS事業	❽ 新排液・元素・地域への展開	• NEDO「新エネ中小・スタートアップ支援制度」に採択された研究開発テーマについて、補助金の交付決定を受領	• （NEDO）	• 2026年10月1日	• 2Q

開放空間で利用できる革新的マイクロ波技術を開発、特許を出願

- 独自のマイクロ波制御ノウハウを応用し、従来困難とされていた開放空間で利用できるマイクロ波技術・装置を開発、特許を出願
  - 特殊な線路構造から発振し、線路周辺にのみ強い電界を形成することで、開放空間でもマイクロ波の漏洩を制御
  - ハンディサイズの照射装置を製作し、実証試験で活用中
- 今後は共同開発パートナー企業との協業を推進し、幅広い産業のプロセス革新に貢献していく



開放空間でのマイクロ波活用イメージ

対象となる主な分野

エレクトロニクス・半導体 ｜ モビリティ・自動車 ｜ 社会インフラ

本技術の特徴

- 照射範囲を所定の範囲に留められる
- 対象物までの距離・照射範囲を柔軟に制御
- 既存の製造ラインや装置へ後付け可能
- 小型・軽量から巨大インフラ向け大型装置まで対応

想定される利用シーン

- 複雑な構造物の搬送工程での効率的な加熱
- 大型建造物の加工・処理
- 特定箇所の非破壊検査・センシング
- ロボット・ドローン・3Dプリンターと連携した製造・補修

MWS事業 ｜ 全般
打ち手❶ 新規案件の獲得と継続

マイクロ波の利用が開放空間に対応したことで適用できるシーンが広がり、**新規案件の獲得機会**が拡大

大出力マグネトロンの設計・製造に関する戦略的提携（日清紡マイクロデバイス）

- 産業分野でマイクロ波技術を広く社会実装するには、大出力かつ低コストのマグネトロン（マイクロ波発振器の中核部品）が不可欠
  - 重要鉱物の安定確保（経済安全保障）や防衛産業などで、マイクロ波の応用拡大への期待が高まる
- 日清紡マイクロデバイスの製造技術と当社の設計力を掛け合わせ、大出力マグネトロンの早期商業化を目指す

日清紡マイクロデバイス		MWCC		提携で目指すこと
提供する強み：製造技術 • 船舶用レーダー向けマグネトロンで世界有数のシェア • マイクロ波応用製品の長年の製造実績・ノウハウ	×	**提供する強み：設計力** • 鉱山・製鉄・石油化学など大規模プロセスへのマイクロ波技術の適用を推進 • 大出力マグネトロンのプロトタイプを独自に開発	▶	• マグネトロンの**大出力化** • 電気からマイクロ波への**高い変換効率** • 製造**コストの大幅な低減**

MWS事業｜全般
打ち手❸ 発振器の内製化と大型化

マグネトロン製造のスペシャリストとの共同開発により、**発振器の内製化と大型化**を前進

アジェンダ

1. エグゼクティブ・サマリー
2. 第1四半期業績・経営指標ハイライト
3. 成長戦略及び第1四半期公表案件ハイライト
4. （参考）決算発表日までの公表案件ハイライト

マイクロ波によるボーキサイト処理のパイロット装置契約を締結（Rio Tinto） (1/3)

- Rio Tinto Aluminium Limitedと、ボーキサイト処理パイロット装置の設計・製作・試験に関する契約を締結
  - 約2年間のラボ・ベンチスケールでの共同開発を経て、パイロットスケールへ移行
  - マイクロ波を用いたボーキサイト処理により、アルミナ精錬工程の生産性・エネルギー効率向上と排出量削減を目指す
- 2027年4月に製作開始、2028年3月の完成後に試験を開始し、商業規模でのスケールアップに繋げる
- ソリューションを広げる3つの軸のうち、①領域（資源・金属）と③市場（海外）を同時に広げる案件
  - リチウム・ニッケルに続き対象鉱種をボーキサイトへ拡大し、鉱種共通の工程で装置の標準化を進める

Rio Tinto	MWCC
位置づけ：共同開発パートナー • 世界有数の資源メジャー • 約2年間、ラボ・ベンチで共同開発 • 鉱業・精錬の脱炭素化を推進	**担う役割：装置開発・試験** • 装置の詳細設計・製作・設置 • 大阪事業所で試験を実施 • 最適な運転条件を評価

パイロット試験で検証すること

- 鉱石処理の**最適な運転条件**
- 精錬工程の**生産性**と**エネルギー効率**
- **スケールアップ**に向けた知見の獲得

MWS事業｜鉱山・資源
打ち手❻ 提携先・販売先の確保

世界有数の資源メジャーとの契約締結により、**グローバルな鉱山・資源分野の提携先**を確保

マイクロ波によるボーキサイト処理のパイロット装置契約を締結（Rio Tinto） (2/3)

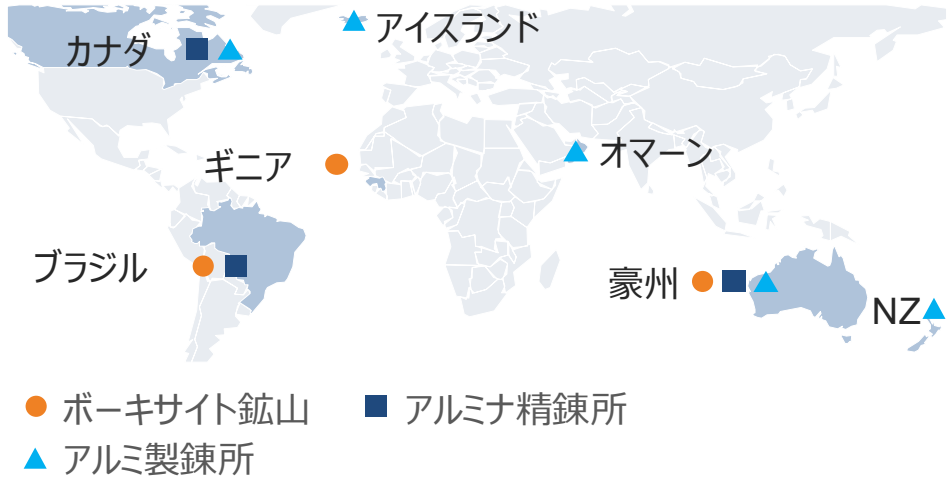
RioTinto について

- 世界34カ国、6大陸で事業を展開する世界有数の資源会社
- 鉄鉱石、アルミニウム、銅、リチウムを主要製品とし、イノベーションと長年にわたるパートナーシップを通じて責任ある事業運営に取り組み、世界が必要とする素材を提供

会社概要

創業	1873年
本社	イギリス・ロンドン、オーストラリア・メルボルン
上場	ロンドン、オーストラリア、ニューヨークの各証券取引所
主な事業	鉄鉱石・銅・アルミニウム・リチウムなどの採掘・加工
事業展開	34カ国で事業・プロジェクトを展開
売上高	576億米ドル（2025年12月期、グループ連結）

Rio Tintoのアルミニウム事業拠点



契約の相手先	**Rio Tinto Aluminium Limited**（本社：豪州ブリスベン、1956年設立） **Rio Tintoの100%子会社**で、オーストラリアのボーキサイト鉱山やアルミナ精錬所などを保有・管理

出典：Rio Tinto「Annual Report 2025」（2026年2月）、同社ウェブサイト

マイクロ波によるボーキサイト処理のパイロット装置契約を締結（Rio Tinto） (3/3)

- アルミニウムは脱炭素とAIインフラの両面で需要拡大が見込まれ、経済安全保障上の重要性も高まる
- 一方、アルミナ精錬は熱エネルギーの多くを化石燃料に依存しており、生産工程の脱炭素化が求められる

アルミニウムの需要を押し上げる要因

脱炭素	自動車・航空機の軽量化で、燃費やEVの航続距離が向上
生成AI	データセンターや送電網の増強で、 冷却・配電設備や送電線に使われる
経済安全保障	米国や欧州で、アルミニウムとボーキサイトが 重要鉱物・重要原材料に位置付けられる

原料と製品



イメージ：左／ボーキサイト、右／アルミニウム

アルミニウムの製造工程

本件の対象工程

ボーキサイト（鉱石） ▶ **アルミナ精錬** ▶ **アルミナ**（中間原料） ▶ **電気分解** ▶ **アルミニウム**

大量の熱エネルギーが必要
熱源の多くを化石燃料に依存

マイクロ波溶剤蒸留回収装置「CA-800M-01シリーズ」を発売（コーベックス）

- コーベックスが、当社と共同開発したマイクロ波溶剤蒸留回収装置「CA-800M-01シリーズ」の販売を開始
  - 2026年2月の共同開発発表後、プロト機の製作・検証を経て製品化
  - 従来の外部加熱方式では処理が難しかった使用済み溶剤にも適用可能
- 使用済み溶剤を「廃棄物」から「資源」へ転換し、製造現場のコスト削減と資源循環の両立に貢献
- 当社技術を製造現場に実装し、稼働で得た知見を技術と事業の成長に繋げ、当社ビジョン「社会実装を超える」の実現を目指す



マイクロ波溶剤蒸留回収装置「CA-800M-01シリーズ」イメージ

製品の特徴

- 200Lドラム缶のまま蒸留処理、移し替えが不要
- マイクロ波の直接加熱で残渣の付着を抑制
- 従来比300%の蒸留速度も実現可能（溶剤による）
- 使用済み溶剤を工場内で再生・再利用

想定する用途・業界

- 有機溶剤を洗浄・製造工程で使う製造業
- 塗料・インキ、樹脂・合成樹脂
- 化学・ファインケミカル

MWS事業｜全般
打ち手❷ 小型装置の標準化・事業モデルの確定

パートナー経由の標準製品販売により、**小型装置の標準化と事業モデル確立**を推進

白金・イリジウム回収技術の開発でNEDO補助金の交付決定

- NEDO「新エネ中小・スタートアップ支援制度」に採択された研究開発テーマについて、補助金の交付決定を受領
  - テーマ：燃料電池・水電解の普及を支える白金族貴金属国内循環システム構築に向けたDPS回収技術の実用化研究開発
  - 水素・燃料電池利用促進分野の「社会課題解決枠フェーズB（基盤研究）」として採択
- パラジウム（Pd）回収で商業実績を持つDPS回収技術の対象を白金（Pt）・イリジウム（Ir）へ拡大し、国内資源循環の構築を目指す

背景

- 燃料電池・水電解の普及で、**白金族貴金属の需要**が拡大
- Pt・Irは供給地域が偏在し、**国内での資源循環**が重要に
- 製造工程の排水などに含まれる貴金属は**超低濃度**で、従来技術では回収困難

開発内容

- Pd回収で商業実績のある**DPS回収技術**を応用
- 独自の表面修飾シリカゲルで、不純物を含む液から**高速・高選択に回収**
- Pt・Irに適した表面修飾条件と前処理・フロー処理を最適化

今後の展望

- 回収対象を**PdからPt・Irへ拡大**
- 超低濃度の白金族貴金属を**国内で再利用**する技術基盤を構築
- 成長産業の**貴金属の安定確保**に貢献

DPS事業
打ち手❽ 新排液・元素・地域への展開

DualPoreSystem回収技術の対象を**PdからPt・Irへ拡大**し、新元素への展開を推進

End of Document



Make Wave,
Make World.

世界が知らない世界をつくれ